

新潟県

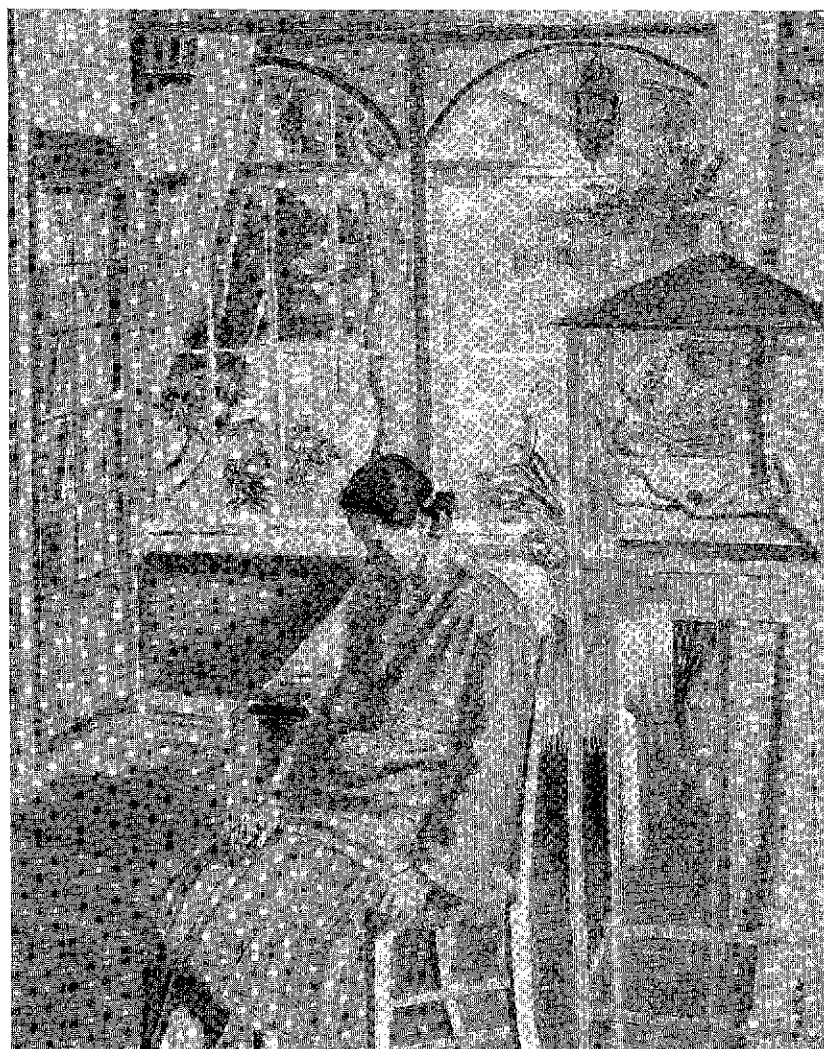
平成2年

公民館月報

6月
第448号

公民館事業入門(3)

— 団体育成の問題点 —



牧野虎雄(1890~1946)

「サンルーム」(1929年)

油彩・キャンバス

新潟県美術博物館蔵

サンルームにふりそそぐ光の中で女性がまどろんでいる。彼女の気持を伝えるように、明るい色彩で平面的、装飾的に構成された画面には、落ちついた解放感が漂う。

心地よい気分を一気に描き上げた油彩による文人画といった趣をもつ作品である。

牧野虎雄は上越市出身。生涯を油絵による日本的叙情に捧げた画家である。



第 2 回 理 事 会 開 催

去る五月三十日(水)、新潟市中央公民館において、第二回理事会が開催された。

主要議題は、第41回県公民館大会において表彰される優良公民館並びに、永年勤続の公運審委員・非常勤職員
の表彰候補の選考にあった。他に、事務局で用意した議題について活発に討議された。

この日出席した正副会長、理事九名(欠席二名)。定刻午後一時に開会。

永年勤続者表彰は16氏 優良公民館表彰は2館

るまで、和やかな中にも活発な意見の飛び交った理事会であった。

主要議題の表彰選考については、優良公民館候補2館、永年勤続者表彰候補16氏について推薦資料をもとに慎重に審査した結果、全候補を表彰することに決定した。(一覧表参照)。続いて協議した内容は、米年度に予定される第32回関プロ公研集会(当県公連主管)の準備委員会
の結果、委員の構成については、事務局で県教委の指導を受けたが、進めることになった。

第三の議題は、「県職員の旅費支給条例」の改定にもない当県公連の旅費支給規程の別表改定について、次期評議員会に上程することになった。

ほかに若下の情報交換がなされ全ての議題を審議した。役員改選後の初顔合せの理事会ながら、卒直な発言がなされ、終了予定時刻の午後三時を過ぎ

記念論文の審査終わる

最優秀賞は田邊直直氏
優秀賞は内山和夫氏

かねて、県公民館連合会の創立四十周年を記念して懸賞論文を公募していたところであるが、応募作品六点を獲得、去る平成元年十二月末日で締切った。その後、新潟大学吉川弘教授を審査委員長に、鋭意審査に取り組んできた。その審査結果、最優秀賞は、柏崎市大州地区公民館長田邊直直氏、優秀賞には長岡市中央公民館技師の内山和夫氏が決定し、他の四氏は佳作に入選した。田邊、内山両氏の論文は、県公民館大会資料に掲載することと同大会で表彰する運びになっている。両氏から受彰の感想を寄せてもらった。

優良公民館表彰

柏崎市中通地×公民館
新潟市曾野木地区公民館

永年勤続者表彰

藤川正英	糸魚川市下早川公民館
渡辺泰俊	下早川公民館
本間俊一	佐渡郡柳野町公民館
中川政和	柳野町公民館
渡辺和正	柳野町公民館
池田茂	中頸城郡妙高村公民館
堀井利勝	柿崎町黒川分館
堀野虎太郎	燕市川前公民館
星野良祐	中央公民館
田辺保子	中央公民館
神保子	三条市大島公民館
白鳥友子	西蒲原郡西川町公民館
白子友子	西川町公民館
白子友子	新潟市曾野木地区公民館
太瀧悦夫	曾野木地区公民館
野上悦夫	曾野木地区公民館
南雄太郎	北地区公民館

で、上記の観点についての目録の歩みを述べていただいた次第です。

長岡市中央公民館技師
内山和夫



柏崎市大州公民館長
田邊直直

柏崎では長い間継続して、公民館運営上の努力点として「生涯学習の振興とコミュニティづくりの推進」を掲げてまいりました。



館内会議で「論文を書いてみないか！」と
言われ、思

したがって、私達地区館の立場では、「この両者をどう統一的にとらえ相関的に見るか」は現場的な切実な課題でありました。さいわい、このたび県公民館連合会で、ご指導いただけた機会を、お与えくださいました。

わす「ハイ！」と言ったのがきっかけでした。しかし、いざ書こうと思っても日々迫りくる公民館事業を消化するのが精一杯で、とても論文を書く余裕など無かったです。それでも、どんな内容でも良いから「書かねばならぬ」の一念で頑張りました。「論文」という偉大な先生は、本熟な私に日常業務の反省をさせ、今後の進むべき方向を考える良い機会を提供してくれました。



層破壊の問題・海岸汚染の問題等々は、どれ一つ取っても一因で解決できる問題でない。

辛口

最近とみに地球環境の危機が告げられるようになりなっ

地球上の全人類がその英知と協力によって、よい地球環境を子孫に残す努力をしなければならぬ。

今、残すもの

村松町長 阿部直之

町村で鋭意努力を傾注しているが、このこともよい地球環境を残す努力と同じように、生涯を通して学ぶことの楽しさや学ぶ意欲を持ち続ける生涯学習の素

地を育て残す努力が大切と考える。それには、住民と行政側が一体となって生涯学習の推進を図らなければならない。いずれの一方に偏重しても大きな期待をするものでない。

あくまで住民の側に立って町の行く方向を見定めながらのことである。

学ぶ意欲・参加する雰囲気・燃えるものがある町は楽しい。(公振連 監事)

平成2年度 新潟県公民館連合会役員名簿

平成2年6月1日現在

都道府県	市町村	役職名	氏名	所属公民館
下越	新潟市	会長	木下清二	新潟市中央公民館
	新潟市	副会長	藤部忠孝	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	阿部波善	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	熊谷工	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	小川静司	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	小原利之	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	阿部文恵	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	阿部庄太	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	阿部宏	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	阿部雅晴	新潟市中央公民館
中越	新潟市	副会長	星野正広	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	小原昭昌	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	小原鳥二	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	山田正義	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	大野敏夫	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	佐藤三男	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	山口誠司	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	加藤幸悌	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	森山倉新	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	白高橋清逸	新潟市中央公民館
上越	新潟市	副会長	畑耕一	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	阿部直孝	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	阿部藤真	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	阿部藤光	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	阿部藤光	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	阿部藤光	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	阿部藤光	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	阿部藤光	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	阿部藤光	新潟市中央公民館
	新潟市	理事	阿部藤光	新潟市中央公民館

私の生活記録



謹啓 四月も問近かなり、佐渡の島開きもあと僅かになりました

公民館歳時記 ③

山本 醇

た拙文を中心として、一度活字になったものを集めたものです。それに、この冊子の発行を思いついたのは、戦死した弟(三男三郎)の記録も早くからまとめてみたいと思っていたからなのです。

こんな拙い私の記録集ではございますが、おひまな折にお読みいただければと思います。私もお送り申し上げます。

私一昨年に喜寿を迎えたが、こんどは米寿に向って、これからの人生を送りたいと思っています。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

- 一、佐渡の公民館から
- 二、新潟県公民館月報から
- 三、真野公民館だよりから
- 四、"しまのくらし"から
- 五、北海道・樺太の思い出から
- 六、その他の記録から
- 七、特集"大空の花と散った第三男三郎" 25年の生涯から
- 八、私の家の先祖

A5判、二三〇頁、限定販売 みたい方は県公連事務局で貸出に応じます。(編集部)

門 (3)

点

社会教育主事 伊田千代子

11月14・15日にお
担当助言者が問題



伊田千代子氏

公民館にとつての団体育成の事業は、地域の活性化という意味から極めて重要な役割を担っている。しかも、地域住民の自主的自発的な活動をうながすためにも重要な役割を担っている。そうした中で、青年層のグループやサークルの活性化がどの市町村でも問題になっているようである。「なぜ青年層の団体育成が出来ないのか？」が共通の課題である。

そこで、当部会は青年層の団体サークルづくりの問題を絞って研究を深めることにした。指導助言者もまた同じ問題に取り組んでいる現場の職員である。

はじめに

第三部会の参加者は五名。まずは、自己紹介を兼ねて次の二点について発表してもらった。

- ① 各月の公民館で、日ごろどんな仕事をしているのか。
- ② この部会で話し合いたい内容はどうなるのか。

担当事業については、

勤労青少年ホームとの兼務、

青少年担当

・芸術文化係・市展担当

・幼児家庭教育学級担当

・特定領域なく事業全般担当

・婦人領域を除く全事業担当

と、五名の参加者は五様の仕事を担当している。その中で共通していたのが、青年層のグループ・サークル育成に関するところで、共通の問題は「なぜ青年層の団体育成が出来ないのか？」ということだったので、この問題について深めることにした。

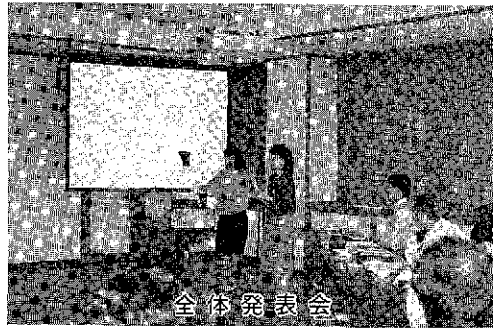
一、青年団体を育成するには

まず、実態を明らかにするため、それぞれの地域の実情を説明してもらった。

A 地域

・ 人口七千六百人のうち、青年は千人。公民館での活動では、料理教室・写真講座・社交ダンス講座を開設している

・ 地域には、5・6人のバン



全体発表会

C 地域

・ 15回くらいの期間の長い青年層が少なく。

B 地域

・ 23集落のうち、3・4地域に昔ながらの青年団が存続しているが、その活動は遊びが中心で、同業者間のつきあい程度である。

・ 青年人口の流出が続き、青年層が少なく。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

・ 公民館として、青年たちとどのように関わり、リーダーを発掘していくかが課題である。

年セミナーを開設。例えば、テニスを中心に、その中に結婚問題・税金問題・国際関係などの学習会を組み入れるなどの工夫をこらしている。

・ 公民館のカルチャ・センター化の中で、人と人とのふれあいなどコミュニケーションを大切にしている。

・ 公民館での青年対象事業は一つだけ実施している。

・ 毎週一回の定例会をもち、日ごろは仲間づくりが中心であり、活動はその都度のイベントを企画することである。

(例えば、祭りへの参加等)

E 地域

・ 公民館設立四十周年の記念事業として新しい企画に取り組んだところ、それが青年のリーダーの発掘につながった。

以上の発表から分かることはそれぞれの地域に、青年人口の多少の違いはあるにせよ、活動する青年のいることが分かる。

ただ、仲間どうして好きなことをやったり、団体やグループとしての組織的な活動を嫌う傾向が強い。つまり、縛られることとに抵抗があるようである。このような青年たちの特性を考慮

しないで、公民館に引きよせようとするところに問題がありそうである。

多くの公民館では、これまでの青年団活動を基準にしてのあべき姿を、今日の青年に求められている公民館の姿が見えてくる。だから、青年への期待が大きければ大きいほど、現実の青年の姿が見えず、ますます青年と離れた感覚を持った職員になっってしまうおそれがある。

ここで、現代青年の特性を考えてみると、集団行動をするかどうかの判断は、その集団の魅力というより、その行動の中心がおもしろいかどうかで決めているように思われる。活動に参加しても、当人がおもしろく思わなければすぐやめてしまう。そうかと思うと、仲間を誘われると、ずいぶん大がかりで大仕事と思われるイベントなどでも最後までやり遂げてしま

う。このように、あまりにもままなのが青年の心理のようにみえるが、豊かな時代の教育や文化の中で育ったせいであろう。確かな目をもって、創造する喜びやチームプレーの醍醐味を味わう体験に乏しい点が特色である。

こうした特性を配慮しながら公民館職員として、団体育成に関する留意点を次の三点に集約

しない、公民館に引きよせようとするところに問題がありそうである。

多くの公民館では、これまでの青年団活動を基準にしてのあべき姿を、今日の青年に求められている公民館の姿が見えてくる。だから、青年への期待が大きければ大きいほど、現実の青年の姿が見えず、ますます青年と離れた感覚を持った職員になっってしまうおそれがある。

ここで、現代青年の特性を考えてみると、集団行動をするかどうかの判断は、その集団の魅力というより、その行動の中心がおもしろいかどうかで決めているように思われる。活動に参加しても、当人がおもしろく思わなければすぐやめてしま

う。このように、あまりにもままなのが青年の心理のようにみえるが、豊かな時代の教育や文化の中で育ったせいであろう。確かな目をもって、創造する喜びやチームプレーの醍醐味を味わう体験に乏しい点が特色である。

こうした特性を配慮しながら公民館職員として、団体育成に関する留意点を次の三点に集約

公民館事業入 — 団体育成の問題

執筆担当 前新潟市烏屋野地区公民館

本会主催の公民館職員研修(平成元年ける部会演習で討議された内容をもとに解決の方向を示唆したものである。

手この手を使って努力しているのが実情のようだ。例えば、

a 自主グループに移働した場合は、半年間会場を無料で提供する。

b そのグループの会員募集にあたっては、市の広報紙に掲載する。

c 活動歴の長いグループには学校開放を利用できるように便宜を図ってやる。

などのいろいろな特典をつけて援助をしているが、なかなか継続するグループが増加しない。

こうした実態の中で、青年の自主活動を継続的に推進するにはどうしたらよいかについて掘下げて話し合った。その結果次の点が指摘強調された。

① 青年のニーズを的確に把握し、事業を企画する。

② 青年の立場で考えることが必要である。

③ 青年のやる気を起こすように仕向け、見守る心掛けが必要である。

二、学級・講座終了後、自主グループを育成するには

公民館の学級講座には、一年間にわたる長期間のものから、数回の短期間で終了するものも様々である。これらの学級・講座に参加する青年たちに、終了後に自主グループとして活動させるために、各公民館ではあ

- ① 学級・講座が限られた時間のため、さらに継続して学習を深めたいと思うとき。
- ② 講師の人柄に魅力を感じ引きつけられ、講師を囲むグループの結成。
- ③ せっかくな知り合った受講生の仲間意識が、親睦のグループになったり、更に新しい活動



研究会

のためのグループになる。

以上のように、公民館の主催事業が、終了後のグループ化を意図したり、受講者の自発的なグループ化など、いずれであってもグループ化後は、公民館への依存は極力排して、自主運営のできる意欲と能力をつけるような配慮が必要である。その要

- ・ 公民館職員としての押し付けはしない。
- ・ 講座の開講中に、自主グループに移行しやすい雰囲気づくりをする。そのため、リーダーにふさわしい人に日星をつけておくことも大事である
- ・ 活動内容は、講座開講中に学んだことにはこだわらずにそのグループに任せる。

・ アフターケアをしつかりとすること。アフターケアの肝心なことは、前述のa・b・cに關することであろう。

三、地域の中核となるリーダーを養成するには

公民館はややもすると主催事業だけが任事と思ひこむ傾向がある。それも、事務的に事業の企画さえすればいいといった一般行政部局の仕事のようなやり方ではリーダーの発掘や養成は難しい。

- ・ まず、地域の人々と親密な人間関係をつくる。
- ・ 既存の地域団体とうまく連携を図ることが大事である。

こうした仕事の中からリーダーに摘した人物を捜すことができるのではなかるうか。

とすると、公民館職員は、公民館の「館」の中に籠もってばかりいたのでは成果は上がらない。努めて地域に足を運びコミュニケーションを深めることも大事な仕事であることがわかる。

結 び

話し合い研修の最後に、吉川弘教授の指導講義を受けた要点を紹介して結びとする。

「公民館職員は、団体やグループから、手足となることが求め

られ、その求めに応じることが良い職員の条件であると受け取られている傾向があるが、生民自治を目標としている観点からは問題である。

グループ・団体の発達段階に応じて、職員の対応も

指し→助言→任せると変化させる必要がある。

青年集団の育成の場合にも、職員の青年に寄せる期待よりも青年の立場になって考えることを優先させる。職員と青年との間にどの程度の譲歩ができるかが成功の鍵である。

できる限り、自由に参加できる場を設け、青年の自発性や主体性を尊重することである。熱意のあまり押し着せとなり、参加者の主体を欠くことは敵に氣をつけなければならぬことである。参加者が学んだことを個人レベルにとどめるか、地域や社会に結び付けていくかは職員の対応に大きくかかっている。

白らの意志で、自らの選んだ内容を、自らの摘した方法手段で学んでいく生涯学習を援助する学習の場として、身近にある公民館に寄せられる期待は大きい」と指摘された。

見附市青少年団体協議会

29 回 続 いた 「青 研 集 会」

参加しやすい条件づくりを工夫 企業主の理解と協力がミソ

はじめに

見附市青年活動研究会(以下「青研集会」)は、昭和37年に発足し、これで29回目を迎える。昭和40年代は100人を超える参加者があったが、最近では50人を下回るようになった。しかし、参加した青年たちの間では好評で、5回6回と継続参加している者もいる状況でもある。

昭和63年度に「見附市青少年団体協議会」という自主組織が結成され、それまで、教育委員会と公民館との事業として実施していた「青研集会」を主催することになった。これは、青年たちが自主的な活動として取り組むことで活性化を狙ったものである。

更にもう一つの狙いは、企業主への理解と協力を得ることにあった。というのは、参加対象が、市内在住者又は勤務の勤労青少年である。二泊三日の研修となると勤務に支障を来し参加し難いものがある。むしろ、教委も公民館も企業主への理解と協力を得てはいるものの、彼等の自主的な活動が企業主に好印象を与え、参加し易い条件を作っているもので、これは、当見附市の大きな特色といえよう。

「青研集会」の実際

そもそも「青研集会」の狙いは、青年を取り巻く諸問題をお

互いに持ち寄り討議し、生活の全てを分担し合い、積極的に自己を表現し、ひとりでも多くの仲間を得て語り合い、リーダーとしての資質を高め、青年らしい社会生活を営むことを目的としているものである。

まず、十月中旬に参加者の募集開始にあたり、あらかじめ定められたテーマによるレポートを提出し、それにより、出発までに三回の事前研修を行い、班編成による討議内容の設定・係り活動の割り当て・野外研修の計画立案などをすませる。

そして、平成2年1月13日から15日までの二泊三日にわたり、東京代々木の「国立オリンピック記念青少年総合センター」で実施された。各班8〜10名程度の班に編成し、「討議」係り活動、「野外研修」の三部門の活動が展開された。

(1) 討議集会

スローガン・研修テーマ・班ごとの討議内容などは次表のとおりである。事前研修での研修

メイン スローガン 語ろう見附! 語ろう未来!

研修テーマ 現代社会における青年の社会参加と役割

班別研究テーマ

- 現代社会における青年の考え方
- 人生観について
- 青年の役割
- 家庭・会社・地域について
- 自分を見つめなおす
- 生きがいについて

とオリセンでの二日間の研修を合わせて約十時間の討議を展開したことになる。さらに、最終日には、全体会を開き討議のまとめと発表会も行われた。

(2) 係り活動

参加者全員が何らかの係を分担するもの。
司会・班長・生活係・副班長・交歓係・キャンドルサービス係・通信広報係・記録写真係の各係りが設けられ全員がみんなのためによく働いた。

(3) 野外研修

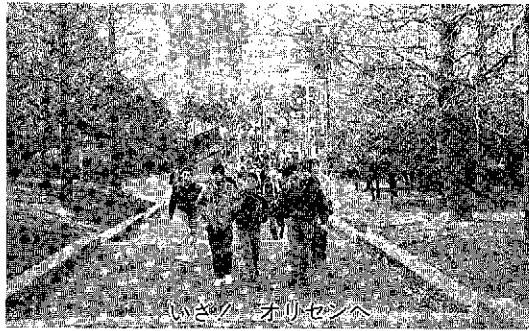
・NHK放送センターの見学
・三日目は、自由行動とし事前日程計画を作成し、美術館・博物館等の文化的施設の見学を必ず取り入れることにした。
以上の現地研修終了後、事後レポートの提出、2月の第一日曜日に事後研修と反省会を開催し「青研集会」の全事業が終了した。

おわりに

最近の状況を見ると、参加者は年々減少の傾向にある。特に青年団以外の一般青年の参加が少ない。参加者全体の7分の1か8分の1にしかならない。青年団の方も、毎年新人がある程度参加してくれてはいるが、団員の絶対数も減っている。減少傾向はこれからも続くであろう。ほとんどの若者が車を持ち、遊び場も多く、仲間もそこそこいる。そんな状態では、青年団に入るよりも、自分の自由になる世界にしか興味がない、というの一般的な傾向である。

しかし、青年団の活動や「青研集会」でなければ味わえないものがある。そして、やり終えたときの充実感や満足感は何にも代えられないものがある。この素晴らしさを若者に分かってもらうためのPRは難しい。いきおい口コミにしか頼ってこなかったが、情報活動を更に充実するとともに、企業主の理解と協力をより一層得て、更には、「青研集会」の内容そのものにも時代の変化に対応した柔軟性を取り入れ、青年活動の活性化、「青研集会」の一層の発展のために努力したい。

(見附市今町公民館 主事 鈴木勝夫 記)



サークル交流

よもぎの如く

よもぎの会

昭和六十年に公民館で郷土料理の収集と地域間の交流を目的とした「味くらべ交流事業」が行われました。そして、一年間に集められた資料を編集して「南部の味と暮らし」という本にまとめました。その時の有志で「よもぎの会」を作り、地域の伝統食や文化、生活を研究、残していこうと活動を始めました。

会は、月に一回の例会を持ち、今までにVTRを使って「南部の山菜と暮らし」で山菜の紹介と



ビデオカメラについて

保護を訴えました。二年目はお年寄りのグループと一年がかりで作った「甕たたきびだんご」を、三年目は、中学校のダンスクラブへ指導に行き、「母から娘へ」のVTRを作りました。本年度は、上越ケーブルビジョンの依頼で「南部の味と暮らし」の中から週一回郷土料理を会員が出演して紹介しています。

私達はよもぎのようにどこにでもいる主婦ですが、使い方によってはその一生すべてが人様の役に立つ、そんな会をめざしています。

(新潟市公民館利用サークル 手塚よしえ 記)

クラブ交流会

毎年開講している、公民館主催事業幼児家庭教育学級から生れた自主クラブ「マザーグース」と「パクパク」クラブの交流会が五月九日に開催されました。「マザーグース」は、昭和六十二年・六十三年の受講生で「パクパク」クラブは、平成元年度の受講生です。それぞれ会員数二十名から二十五名で、毎月二回の活動を行っています。



子供も一緒に参加し、クラブ紹介・自己紹介をしてクラブの活動内容について、代表者が発表し、和やかな意見交換もしています。

パクパククラブは、先輩達に見習い、「嫁と姑の交流会、家族の子育て」をテーマにしています。

マザーグースは子供の成長に伴い幼児期から児童期への学習に意欲を燃やしている仲間です。

交流会では「良かったね!」これからも、クラブ員との交流会を深め、育児だけでなく、生活を全般にわたる、生涯学習の場、公民館へ来て、話し合うことが楽しみです。」と話していた。

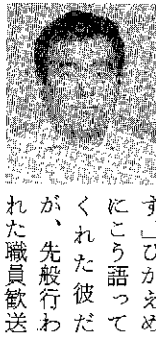
(上越市立公民館 成人係 担当 楠 征幸記)

両津市公民館主事

上杉 寛広 (24) 歳

「役所に入って社会福祉事務所2年過ごし、今年四月から公民館勤務となりました。仕事の内容が全くわからず不安と緊張の毎日を送っています。

無口で口ベタな自分ですが、持ち前のパワーと内に秘めたガッツでどんな仕事にも体ごとぶつかっていきたいと思います。



が、先般行われた職員歓送

迎会では、歌ってよし、踊ってよし、飲んでよし、食べてよし。早くも水を得た大魚のごとく、底知れぬエネルギーと爆発力の一端を披露してくれた。

この積極性、順応性、明るさこそ、公民館職員として必要不可欠な要素ではないだろうか。公民館の仕事をするために、生まれてきたような男である。

人は、その巨体(失礼)をみて、寛広(ひろびろ)と呼ぶが、今後の公民館活動の中核となる若きホープである。

(両津市公民館 吉良 芳治 記)

素顔拝見

新潟市西地区公民館囑託

野沢麻衣子 (26) 歳

野沢麻衣子さんは、元幼稚園の先生だった。なのに、なぜか天職をはうり投げて公民館にやってきましたという変わり種である。

だから、当り前と言えは当り前であるが、チビッコを扱う腕前はさすがという他はない。一度彼女と一緒に、いたずらざかりの二年生を四〇人程つれてキャンプに出かけた事があったが、その時々々の指示のうまさ適確さには真実たまげた。

どの位いたまげたかという少年団の指導二十五年の小学生が



ウーンとうなる程だからおわかりいただけるだろう。性格はアツケラカン、思い切りがいゝが、やゝ無鉄砲、しばしば失敗もするが大して気にもかけない。彼女と話していると漱石の坊ちゃんと話しているような気になって楽しくなる。

空手の名手だと聞いたが、未だケリもツキも見事はない。気をつけた方がよい。独身!

(新潟市関屋地区公民館 武種 洗 記)



シルバーカレッジ'90

シルバーパワーを

社会に生かそう

―郷土に生き、郷土に伝える―

生涯学習専門講座

県教育委員会では、昨年に引き続き平成二年度の生涯学習専門講座(シルバーカレッジ)を開催する。県社会教育課では高齢者の積極的な参加を望んでいる。

趣旨 長寿社会を迎え、高齢者は、これまでに得た豊かな知識・技能を社会に還元するとともに、自らを高めつつ、生きがいをもって生活することが望まれています。

この講座は高齢者を地域における学級・講座等の指導者として養成することをねらっています。

期間 平成2年6月10日

会場 主として県庁会議室

対象 おおむね50歳以上の一般人が全日程参加する。

実施時間等 1日3時間×10回計30時間

講座内容 別表

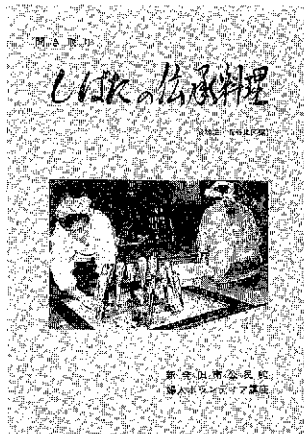
受講申込み

平成2年6月22日までに

往復はがきで左記へ申し込まれた。但し定員に達し次第締切とする。申込み先

〒950新潟市新光町四番地、新潟県教育庁社会教育課宛、(電話)五二八五―五二(内)三六五

資料紹介



聞き取り しばたの伝承料理

新発田市公民館 婦人ボランティア講座 加治・菅谷地区編

学習期日・時間・内容

回	月・日	曜	時間	会 場	講座主題	講座内容
1	6・30	土	9:30 12:30	県会 庁 会議室 1602	高齢化社会の展開とその課題 シルバー・カレッジ	高齢化社会が今後どのように展開するか考える。
2	7・7	土	9:30 12:30	県会 庁 会議室 1602	世界の政治・経済の流れ	シルバーとして世界の変化を学ぶ
3	7・13	金	9:30 12:30	県大 庁 会議室 2階	地域活動の展開	高齢者が地域でどのように生きるか
4	7・21	土	9:30 12:30	県会 庁 会議室 1602	郷土をみつめよう(1)	わが町・わが村の現状を知る、その課題を考える。
5	7・28	土	9:30 12:30	県会 庁 会議室 1602	郷土をみつめよう(2)	わが町・わが村の現状を知る、その課題を考える。
6	8・24	金	9:30 12:30	長岡市立(小ホール)	最近の青少年と高齢者の関わり方	世代間交流の進め方について考える
7	9・1	土	9:30 12:30	県会 庁 会議室 1602	郷土をみつめよう(3)	わが町・わが村を語る(受講生の発表をもとに)
8	9・29	土	9:30 12:30	県会 庁 会議室 1602	郷土をみつめよう(4)	わが町・わが村の未来を築くシルバーの役割について考える
9	10・6	土	9:30 12:30	県会 庁 会議室 1602	環境問題を考える	自然と文化に対するシルバーの役割を考える
10	10・20	土	9:30 12:30	県会 庁 会議室 1602	総合シンポジウム シルバー・カレッジ	地域活動と地域の活性化を考える

新発田市公民館の婦人ボランティア講座の受講者により、「聞き取り、しばたの料理」が発刊された。家事のかたわら、四年間にわたり絶滅に近い郷土料理に取り組み、郷土料理を収録したものである。昨年度刊行した第一集に次ぐもので、加治・菅谷地区を取り上げています。

煮もの、焼きもの、炒めもの、蒸しもの、酢のもの、あえもの、漬けもの、汁もの、ご飯もの、おやつ、揚げもの。参考、と12のジャンルに分かれ、両地区の高齢者学級生の協力により、克明な聞き取りが行われているのが特色である。(B5判、81頁、希望者には実費で頒布している。七百円送料二〇円を添えて左記へ申し込まれた。〒957新発田市中央町4-11-7 新発田市公民館宛) 電話(五二八五)一五七六

あとがき

◆県公民館大会がいよいよ、あと一か月後に迫りました。会場の燕市はもちろん、本会事務局も目下準備で大わらわです。参加する皆さんに少しでも多くの「みやげ」を差し上げるべく心を砕いているところです。関係者一同多数の参加をお待ちしております。

各公民館におかれては、市町村ごとの一括申込みについて、早めに大会事務局へお願いいたします。

◆関東甲信越静公民館研究会も九月十一・十二日と長野県上山田町で開催されます。この開催要項もすでに各市町村公民館にはお届けていますが、奮ってご参加ください。そして県外の公民館の活動に学ぶ機会にしましょう。(上村 記)

発行所 新潟県公民館連合会
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟(025)224-6073】
発行人 会長 木下清一
編集人 事務局長 上村捨二郎
【定価1部120円 年共・年板1,440円】